

# BCG 予防接種説明書

## 1 結核について

- 結核は、結核菌の感染で起こります。わが国では今でも毎年2万人を超える患者が発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんにもうつる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。BCG ワクチンは、髄膜炎や粟粒結核（菌が血液の中に入って全身に広がる）などの重症になりやすい乳児期の結核を防ぐ効果が確認されています。

## 2 BCG ワクチンの効果

- ①BCG 接種は適切に行われれば結核の発病を、接種をしなかった場合の1/4くらいに抑えます。
- ②BCG 接種は、結核性髄膜炎や粟粒結核など小児の重篤な結核の発症予防に特に効果があります。
- ③BCG ワクチンは一度接種すれば、その効果は10～15年程度持続します。

## 3 BCG ワクチンの副反応

- ① 接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さな膿ができることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3ヵ月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG 接種による抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯したり、絆創膏をはったりしないで、そのまま清潔を保ってください。ただし、接種後3ヵ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談して下さい。
- ② まれに、接種した側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれて膿が出る場合があります。このようなときは医師に相談してください。

## 4 コッホ現象について

お子さんが接種前に結核菌に感染している場合は、接種後10日以内にコッホ現象（接種局所の発赤、腫脹（はれ）及び接種局所の化膿等を来し、通常2～4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応）が起こることがあります。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、結核の感染が疑われるため、速やかに医療機関へ受診し、住民課に相談ください。この場合、お子さんに結核を移した可能性のある家族の方も医療機関に受診するようにしましょう。

## 5 予防接種のスケジュール

【対象年齢】：生後1歳に至るまでの間

標準的な接種期間は、生後5か月から生後8か月未満

【接種回数】：1回

接種回数	 1回
接種時期	1歳未満
標準接種時期	生後5か月～8か月未満

## 6 予防接種による健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
  - 健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
  - ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。
  - 予防接種法に基づく定期の予防接種として定められた期間を外れて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医療品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法と比べて救済の対象、額等が異なります。
- ※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、雨竜町住民課へご相談ください。

## 7 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行なうことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

- 以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。
  - ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）。
  - ②重い急性疾患にかかっている方。
  - ③その日に受けるワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方。
  - ④BCG接種の場合においては、外傷等によるケロイドが認められる方。
  - ⑤その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。
- 次の方は、接種前に医師にご相談ください。
  - ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
  - ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
  - ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
  - ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
  - ⑤このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
  - ⑥BCGの場合、過去に結核患者との長期の接触があった方、結核に感染している疑いがある方。

## 8 接種後の注意

- ①接種後30分間は医療機関にいるなどして様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ②接種後、4週間は副反応に注意しましょう。接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ③接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動はさけてください。
- ⑤接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日以上の間隔をあける必要があります。

問い合わせ先:住民課 保健担当 電話 77-2212